

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

第618号 2021年8月8日

鈴木真主任司祭 主日ミサ説教

2021年3月21日 四旬節 第5主日 B年
ヨハネ福音書 12章20-33節

「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ一粒のままである。だが、死ねば多くの実を結ぶ。」

イエスの十字架の意義、と言うか意味付けのような言葉ですが、なにか少し結果論的な感じがするので、わたしは、どうもイエスご自身の言葉とは思えません。むしろ、後から教会が書き足したものでないでしょうか。

なぜイエスは十字架にかからなければならなかったのか。マタイ・マルコ・ルカの3つの福音書には、イエスご自身による受難の予告が3回にわたってなされています。ただ、「なぜ」という部分に関しては、はっきりとは語られていません。だからでしょうか。初代教会は、その答えを旧約、特に詩編とイザヤ書に求めた、と言われます。そして、出した結論が、パウロが言うように「わたしたちの罪の贖い^{あがな}のため」でした。でも、これもやはり少し旧約的…という印象があります。旧約を参考にしたので、当たり前ではあるのですが…。

無論、神学的には、いろいろな言い方ができるのですが…。では、自分にとって「十字架とは何か」と言われると、わたしにとっては「復活」と同じく、個々人の体験の中に位置づけられるもののようにも思われます。そして、わたしが一番じっくりくるのは、先週の箇所にもあった「神

は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」ということです。つまり、神さまは、いつの世にあっても、わたしたちの苦しみを、いつも共に担ってくださっている。キリストの十字架こそが、そのしるし…ということなのです。

東日本大震災から、今年で10年になりました。震災直後に、震災後のさまざまな悲惨な映像を重ねた「十字架の道行き」の祈りが作られました。原発事故を含めて、イエスの十字架の道行きの各内容に合わせて震災直後の映像が提示され、各留の終わりに「キリストは、自ら十字架を担われた。主よ、支え合って生きる力を、わたしたちにお与えください」と祈ります。十字架に向かうイエスの苦しみと、被災者たちのそれが、まさに重なり、これを祈っていると、まさしく神ご自身が、わたしたちと苦しみを共に担ってくださっている、という思いが強くなります。

横浜教区では、10年前の震災直後から、有志の若者たちが被災地支援に動き、「Peace be with You」というグループを立ち上げ、ずっと活動し続けています。ここ山手でも、物品販売などでお世話になっていますが、わたしと司教館の保久師もずっと一緒にやらせてもらっています。今年は震災から10年目ということで、先週の日曜日、「この10年を振り返って」というオンライン集会を開きました。そこで、先ほど言った「十字架の道行き」を10年ぶりに祈ったのですが、久しぶりに見る震災直後の映像に、涙が止まらなくなりました。あの想像を絶する苦しみ、その中で神さまは確かに寄り添ってくださって

いる…という思いを、改めて強く持ちました。

今年も聖週間が近づきました。キリストの受難と復活を改めて記念する中で、そこに提示されている神さまの大きな、無限で無条件の愛を、多くの人と分かち合いたいと思います。

2021年5月9日（日）復活節第6主日B年 ヨハネ福音書 15章9-17節

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。」

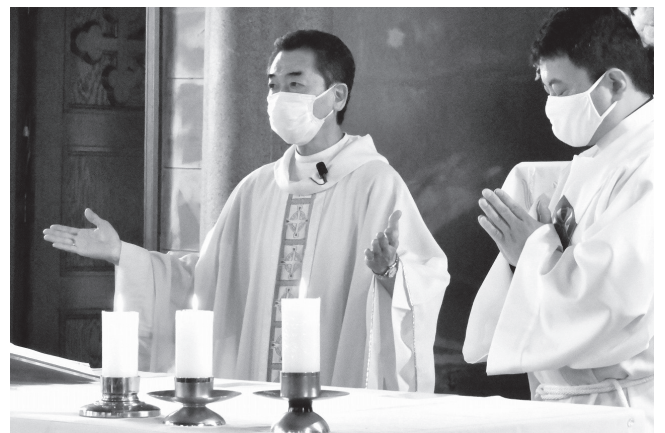
この箇所、あまり考えずに普通に読むと、ほう、イエスさんいいこと言うね…くらいにしかならないかもしれませんが、実は当時の人たちに対しては、かなりの爆弾発言だったと思われまふ。と言うのも、「掟」とは旧約の律法を指す言葉で、「掟」と称される律法の条項は、実に613を数えた、と言われるからです。ちなみに「掟」と訳された〈ハガナ〉というヘブライ語は“刻む”という意味で、「律法」と訳された〈トーラー〉は“指し示す”という意味だそうです。何となくここにもヒントがありそうですが…。

もともと、この「律法」を生み出したのは、出エジプトという出来事でした。「モーセの十戒」がその前身ですけど、出エジプトという大きな救いの出来事を体験したイスラエルの民が「こんなにも神さまによって救われたのだから、そのわたしたちを救ってくださった神さまを大切にしよう、そして救われた者同士、わたしたちもお互いを大切にしよう」と、神の救いへの、いわばアクションとして〈神と人とを大切に〉から始まったものでした。それが文字になった時点で「モーセの十戒」（つまり10項）となり、さらに、いろいろな解釈や細則が加えられて613にまで膨れ上がり、その結果、イエスの時代、人を縛るものになってしまいました。

ある意味でイエスは、それを元に戻した、と言っていいのでしょうか。しかし、613もあった掟を「あなたがたに新しい掟を与える」（13章34節）と言って、たった一つにしてしまったことは、当時の人たちには少なからぬ動揺を与えたでしょう。でも、イエスは、ここで「わたしがあなたがたを愛したように」と加えることで、神さまの方から先に、しかも、ど

れほど愛してくださっているのかを思い起こさせます。「大事なことは、ただ一つ。神と人とを愛すること」ということなのでしょう。

神学生るとき、教会法を教えてくださいました先生が言った言葉が、いまだに忘れられません。「イエスは613もあった律法という決まりごとを、たった一つにしました。でも、カトリック教会は、2000年かけてそれを2000近くに増やしたのです」…、確かに現行の教会法の条項は1752項あります。笑えない冗談だよなあと思いつつ、やはり大切なことは、そう多くはない、と感じます。無論、人が一緒に、いろいろとやろうとすると、どうしても決まりごとが必要になりますが、教会の歩みにおいても「一番大切なことは？」「今、一番神さまが望まれていることは？」と常に問い直す必要があるのかもしれない。何よりも神と人ともに目を向けること。イエスさんのように「命がけ」では、わたしたちは、なかなか愛せませんが…。その言葉の中に、神さまの大き過ぎる愛があることを、いつも心に刻みたいと思います。



（撮影：編集部 土方芳人）

司祭の横顔に近づく！インタビュー企画①

助任司祭 ダリル・サントス・ディニヨ師 編

Q：簡単に自己紹介をお願いします。

A：来日は2017年、フィリピンのBulacan州出身、1979年9月2日生まれの41歳です。家族は、両親、上に3人の兄、下に妹が1人の7人、全員が



日本語でのインタビューに笑顔で応じるダリル師

信徒です。今は妹一家が両親と同居中です。

Q：どんな子ども時代でしたか。

A：近所の友達と一緒に外で泥んこになって遊びました。柔らかいボールを手で打つ野球のようなゲームに夢中になった時期を懐かしく思い出します。

Q：どんな青年だったのでしょうか。

A：愛情深い両親のもと、経済的苦労はありましたが、家族兄弟で協力し合って大学（工学部）まで進みました。学生時代にはレジオマリエに入り、教会ミサでは侍者をしていました。

Q：司祭に至る道のりはいかがでしたか。

A：大学を卒業したあと、石油会社、製薬会社に勤めました。途中病気もしました。1年間だけイエズス会の神学校で勉強したあと、仕事に戻ることにして、外資系消費財の会社に入りドバイで3年ほど暮らしましたが、フィリピンに戻って神学校に入ろうという気持ちになり、入学を許可されたのが、聖ビンセンシオの宣教会の神学校で、8年後の2016年に叙階されました。今思うと、最初から道はあったように思います。

Q：キリストとの出会いで思い浮かぶことはありますか。

A：ある教会の掲示板に貼ってあったポスターを思い出します。2人の宣教師がバイクに乗り、ゴーグルをつけて遠い山を目指しています。そこには「一番助けを必要としている人々の所へ行こう」と書いてありました。その後で私は神学校のセミナーに参加し、神学校に入りました。一連の流れがポスターの絵とともに繰り返し心に浮かびます。

Q：お休みの日はどのようにお過ごしですか。

A：洗濯、掃除、買い物をもとめてやります。

Q：平日は、どのようにお過ごしですか。

A：5時30分に起床し、祈りと身支度の後、当番の日には修道院へミサに行きます。帰宅後、8時頃から自分で朝食を作って食べます。午後には健康のために近所を中心に1時間ほど散歩に出かけます。毎日ほぼ欠かさずフィリピンの両親にビデオ電話をかけています。彼らはコロナ禍のために自宅にいることが多く、気分転換が必要だと思うし、私のことをいつも心配しているので、多い時には一日に3回ほど画面越しに顔を見せてあって他愛の無い短い会話を交わします。インターネットは本当に便利ですね。

Q：ご両親に最後に会ったのはいつですか。

A：2019年に2人で日本に旅行に来たので横浜を案内しました。楽しい思い出です。

Q：旅行はお好きですか。

A：見知らぬ新しい場所を訪れるのは好きです。今の旅行の目的地は使徒職としての「行くべき場所 (mission places)」だと思っています。どこでしょうね？暑くないところを希望しています（笑）。いつかイエスが暮らした場所を巡礼したいと夢見ています。来日してから修道会関係者が住む磐田、大阪に行きました。京都を案内してもらい、金閣寺を実際に見たときには、これぞ日本文化と感激しました。研修会で北海道にも行きましたが、観光はしませんでした。横浜は、みなとみらいの景観が好きです。

Q：海と山はどちらがお好きですか。

A：山です。山に行くと天国に向けてささやくような気分になります。森にいますと、自分が小さな取るに足らない存在に思えて神様を近くに感じるからです。もっとも本格的な登山はしたことがありません。ケーブルカーで登るのがいいですね（笑）

Q：「マイブーム」はありますか。

A：スマホで写真を撮ることが好きです。風景や自然、日々の食事や散歩で出会った季節の花々などを撮ることを楽しんでいます。それらを両親に見せて私の暮らしを知らせています。

Q：夜はぐっすり眠れていますか。

A：おかげさまでベッドに横になったあとは朝です。

～次号に続く～

助任司祭 西村 英樹師 編

Q：簡単に自己紹介をお願いします。

A：1973年2月5日生まれの団塊ジュニアです。福岡で生まれ3歳で東京都清瀬市に転居、多摩地区などで育ち、20年ほど前に家族で横浜に。



しゃべり始めると止まらないうのでと笑う西村師。家族は母、姉2人で、私は末っ子です。6歳の時に清瀬教会で受洗、幼児洗礼にあたります。出身は鷺沼教会です。

Q：簡単に略歴を教えてください。

A：育英高専（現 サレジオ高専）卒業後、モーター制御の会社、パソコンショップ、IT企業、人材派遣などを経て、最後は子ども用人工呼吸器メーカーに勤めて、上皇陛下のご行幸もあったんですよ。

Q：どんな子ども時代でしたか。

A：背が低く、怖がりの泣き虫でした。言葉は早かったようです。

Q：どんな青年だったのでしょうか。

A：中学時代はサッカー部、高専時代はブラスバンドに夢中でした。5年間の高専生活で、起きていたのは2年半くらいかな（笑）。

Q：社会人生活はいかがでしたか。

A：初めは技術職でしたが、起業したいと思い、商売の基本を知るためにパソコンショップに。営業やマネジメントを学びましたが、途中で向かないなと気づきました。成績も悪くなく、周囲の高評価もいただきましたが、いつも違和感を抱えていました。

Q：お休みの日はどのようにお過ごしですか。

A：掃除や片付け。時々ドライブ。散歩。ネットで映画を見ることもあります。

Q：平日は、どのようにお過ごしですか。

A：5時30分にアラーム無しで目が覚めます。お祈りの後は、FMラジオを聴きながら身のまわりを整え、当番のある日には修道院のミサに出向きます。帰宅後7時過ぎからシリアルと目玉焼きなどの朝食を自分で作って食べ、午前中は部屋や敷地内の掃除などをしてると昼食時間です。午後は身体を休め、夕方からお告げの祈りといった流れでしょうか。

Q：スポーツに親しみはありますか。

A：子どもの頃からブルース・リーやジャッキー・チェンが好きで、近所の古武道道場に通っていました。中学時代はキャプテン翼世代なのでサッカー部で、当時のポジションはウイングでした。23歳からは中国拳法を始め、これが自分には一番合っていました。横浜に転居してからは、近所の合気道道場に5年ほど通っていました。今は、ダーツとビリヤードが好きです。

Q：PCやスマホなどIT機器はお好きですか。

A：ひと通り使えるし、ショップに勤めていたこともあり当時は知識もありましたが、高額ですからね。SNSやブログはプライベートでは使っています。

自撮りのアップには抵抗があつて(笑)。今後は公人としての活用を検討しようかなとは思っています。

Q：キリストとの出会いで思い浮かぶことはありますか。

A：9歳上の姉が福岡雙葉に通っていたため、家にマリア像があり、寝る前に家族でいつも祈っていました。だから自分もすでにクリスチャンだと思っていたのですが、まだ未受洗だと知ってショックを受けました(笑)。幼少時から祈りと生活は一緒でしたので、神はいつも共にいてくださると思ってきましたが、本当の意味でキリストを知り、十字架とあがないの意味を知ったのは30代後半になってからだと思います。「どうしていつも上手く生きられないのだろう」という疑問が常にあり、大人になって聖書を読み直し、キリストについて学びなおしたところ、原罪について知りました。「善人も悪人も、生まれたての乳飲み子でさえ等しく罪のうちにあるなら、いったいどこに救いがあるのか」と悩みました。ある朝「荒れ野で蛇が掲げられたように、人の子もあげられ、それが、あがないのしるしなのだとしたら、パウロが言うように、それを信じるかどうかではないか」という思いが浮かび「よし、信じよう」と至り、祈りました。すると、急に世界が今と違って見え、すべてが繋がったような、新しくされたように思えたのです。これがキリストとの出会いだったように思います。

～次号に続く～

コロナ禍のため共同体的交流不足の日々。信徒を代表してお二人の神父様の横顔に迫ってみました。次号に続編を掲載します。（編集部 田中麻子）

「子どもとともに、ささげるミサ」開催

昨年2月23日以来1年5カ月ぶりとなる7月11日13時30分から教会学校、ボーイスカウト、ガールスカウトの子どもたちが参加する「子どもとともに、ささげるミサ」が執り行われました。子どもや保護者、リーダー合わせて65人が参加しました。

予定はしていたものの、新型コロナウイルス感染の状況次第で実際にどうなるか不安もありましたが、準備だけはリーダーの間で十分に話し合って当

日を迎えました。昨年2月に、まだ教会学校入学前だった今の小学校1年生、幼児科の生徒は、「子どもとともに、ささげるミサ」は初めての参加となります。ミサ前に鈴木師と相談し、栄光の賛歌、アレルヤ唱、感謝の賛歌などは「マスクをしたまま小さな声で1番だけ歌う」ことにしました。先唱、朗読、共同祈願、拝領後の祈りなどの係も、ほとんど初めての子どもたちでしたが、皆、一生懸命でした。

ミサ後、ボーイスカウト、ガールスカウトのリーダーの皆さんもとても喜んでくださり、皆の気持ちが一つになって協力し合えたことを心からうれしく思いました。これから育っていく子どもたちの将来が、どうか明るい世の中でありますようにと祈りつつ、これからも見守りたいと思います。

初めて参加した子どもたちや保護者の方が当日の感想を寄せてくださいましたので、ご紹介します。

【幼児科】初めてお母さんと一緒に聖堂に入れたことと、みんなでお祈りできたことがうれしかったです。

【保護者】私は高校までキリスト教の学校に通っていたためミサが大変懐かしく、久しぶりに静かな気持ちになれました。また、神父様が子どもたちに絵本を用いてお話をしてくださり、大変わかりやすかったです。

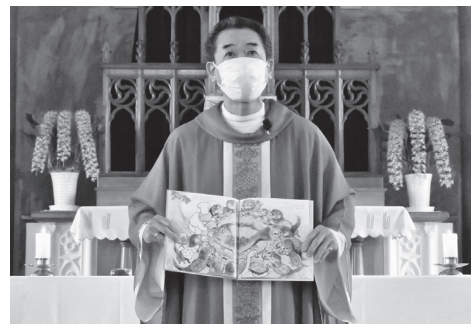
【1年生】幼稚園で歌っていた歌とお祈りを覚えていて良かった。最後に前で十字架を切っていたいただいたのがうれしかった。

【保護者】初めて参加させていただきましたが、親子で参加できて良かったです。このようなご時世ですが、神父様のお言葉に心が洗われるような気がいたしました。

【その他の保護者より】

・クリスマスミサは毎年参加させていただいていたのですが、コロナ禍で去年は参加できず、久しぶりのミサに参加し、短い時間でしたがお話や歌、お祈りをささげることができ、すてきな時間を過ごせた気がします。子どもも、知っている歌やお祈りがあったり、神父様に絵本を読んでもらったりとても楽しい時間だったようです。

・親子ともに初めてのミサ参加でしたが、とても神聖な雰囲気の中、リラックスして参加できたので良かったです。



絵本を使用する鈴木真師



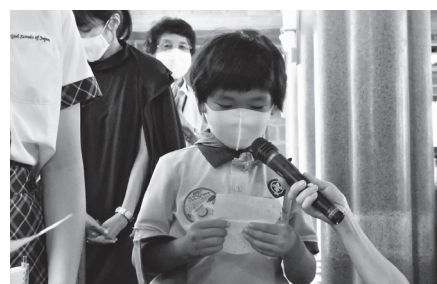
話に聴き入る子どもたち



先唱も担当しました



共同祈願





聖体拝領：ボクはダメなの？

(撮影：編集部 土方芳人)

文：教会学校 太田康子)

2021年7月度教会委員会議事録

日時：2021年7月4日(日) 13:00～14:30

場所：教会ホール

議事内容（議事進行：太田委員長）

1 主な審議確認検討事案 ※順不同

(1) 委員長より報告

- 本日7月4日の11:30のミサでは、上杉新司祭による初ミサが行われた。

(2) 墓地委員会より報告

- 合葬墓の建築の状況については、天候などの関係から当初予定より2週間延長し、8月14日に完成を予定。
- 残工事としては、モニュメントの設置（7月中頃）、合葬墓の床の仕上げ、合葬墓に至る通路と庭の整備が主な工事となる。
- 防犯などを考慮し、街路灯の設置を行う予定。

(3) 今後のミサと教会活動についての課題

- 現状A、Bの各グループのバランスが良くない。
 - 土曜日については、A、Bで分ける必要性が無いと考える。
- A、Bのバランスおよび土曜日のグループ分けについては三役と事務所にて調整を検討する。
- 英語ミサの聖歌について歌を入れたいとの要望がある。
- 聖歌を歌うことについては、感染拡大の防止

- を考慮した対策を行う中で可能であると考え。
- 日本語ミサで第1日曜日、第3日曜日と覚えている方がおり、第5日曜日がある場合に分からなくなるとの意見があった。
- 隔週でA、Bを交互に参加していただく形を継続し第〇曜日というのは考慮しない。
- (4) 10月24日聖堂コンサート（みなとみらいホール主催）について
- 演奏会の日程などが決定、10月24日（日）に14時30分と16時開始の2公演。
 - コンサートに関する問い合わせは、横浜みなとみらいホール仮事務所チケットセンター 045-682-2000（月～木11時～16時）。
 - 万が一コロナ感染の状況が悪化した場合、観客無しの動画配信となることもある。
 - 各公演にて、山手教会の説明が5分程度設定されている。
- (5) ギッフェリの布草履販売について
- ギッフェリは就労継続支援B型事業所で、教会においてもロザリオ会の集まりの後などにパンを販売している。
 - 布草履を作っているのので、教会で販売の機会を設けられたらと考えている。
 - サイズと価格はSサイズ1500円、Mサイズ1800円、Lサイズ2000円。
- 販売に向け、日にちや、より多くの方に提供できるようにポスターの掲示などで注文を受けることも検討する。
- (6) 「子どもとともに、ささげるミサ」（7/11）の人員数についての報告
- 7月11日（日）の「子どもとともに、ささげるミサ」の参加は、73人（内3人は乳児）。
 - 絵本を使用しての説教では、席によって絵本が見にくい子どももいる。スクリーンに投影するような形を考慮したい。
- 投影機を使うことで可能、今後導入の検討を行う。
- コロナ対策として、一度触れたファイルを使いまわさぬようにしているが、子どもミサで使ったファイルの取扱いはどうしているのか。
- ファイルは予め席に置いておく。ミサ終わりにも席に置いたままにしてもらい、ミサ後に回収する。ファイルは今回使った後、数週間は利

用しないため、その間にファイルにコロナウイルスが付着していても消滅すると考える。

(7) 他、各会から

【聖堂使用についての確認】

- 5月27日に行われたレジオマリエのミサで、参加者が100人を超えていたと聞いた。聖堂が使われるケースにおいて参加者の数や内容の把握は、教会として必要ではないか。

→ 申し込み時などにおいて、人数制限していただくよう事務所から依頼することを継続する。その際に人数を把握し名簿を提出するように求める。

【事務所からの報告】

- 来年用の教会情報ハンドブックの情報の更新について依頼が来た。フランス語、スペイン語にミサについてどう記載するか。
- フランス語、スペイン語については、現時点では、なしとする。
- 東洋英和女学院大より7月17日（土）に15人ほどの見学について申し込みがあり受け付けた。

【聖堂会衆席の美観について】

- ミサ後のアルコールでの消毒により木製の会衆席の見た目が汚らしくなっている。
- 当面はアルコール消毒を続けざるを得ないが、コロナが落ち着いたら塗り直しを検討する。
- これまで使用していた座布団はどうするか。
- これまでの座布団は、衛生上の観点からも廃棄する。

【変異ウイルスについて】

- 変異ウイルスの感染が増加し、緊急事態宣言が出た場合において再び会衆無しのミサとなる予告、周知が必要ではないか。
- 緊急事態宣言に限定せず「感染状況の悪化等に応じて対応する」旨を周知する。

【教会委員会のメンバーについて】

- 教会委員会のメンバーについて長期にわたり同じ人が行っていることが問題であると考え。ローテーションができるように検討されたい。
- 全員が一斉に変わると問題だが、できればいろいろな人に関わってほしい。各会で考えていただくのが望ましい。
- ある日突然に切り替えるのではなく、うまく引継ぎをおこないバトンを渡す準備を考えていた

だきたい。

→ 各会の中でも話し合っていたきたい。

【修繕委員会からの報告】

- 第2期工事による聖堂の修繕工事について横浜市に対し見積を提出する。
- 修繕工事に関する状況については、別途信徒に向けて報告が必要と考えている。

2 今後の活動

【聖母被昇天ミサについて】

- 今年の被昇天ミサは日曜日となるが、これによる催し（パーティーなど）は行わない。
- 被昇天ミサは、司教様による司式を依頼してある。

3 報告事項：振り返り・気付き

【福祉委員会からの報告】

- 今年の寿町における夏祭りは中止。
- フードドライブで集まった食糧を、本日、上野町教会に届けた。米、缶詰など段ボール2箱、紙袋2袋。

4 主任司祭から

- 今日、上杉新司祭が山手教会で初ミサを行った。西村神父は雪ノ下教会で初ミサを行った。
- 保土ヶ谷教会については、9月に後任の司祭を決定する。それまで第3地区でフォローする。予定としては、7月11日（日）：西村神父、7月25日（日）：鈴木真神父。
- 水上助祭に月1回説教をお願いしており、次回は7月18日を予定。
- 教区の青年の集いを6月27日（日）に行い、25人が集まった。みんな喜んでいたので、今後も日帰り時間限定で催したい。
- 教区の高校生の集いを8月8日（日）に予定。
- 教区学連(大学生の活動)の集まりを、8月後半に行う予定。
- 第3地区の集まりは7月11日に行われる。山手教会からは、鈴木真神父、太田委員長が参加。
- 共同宣教司牧サポートチーム神奈川として信仰を分かち合う集まりを通常1泊で行っているが、今年は、9月23日（木・秋分の日）に日帰りで藤沢教会において行うこととなった。

5 次回教会委員会

8月1日（日）13時00分～15時30分の予定。

（総務担当 宮 裕一）

2021年8月・9月主日ミサの聖歌および奉仕者予定表

	主 日	聖 歌			聖歌隊	時 間	奉 仕 者				ミサ割当
		答唱詩編	アレルヤ唱	感謝の賛歌			オルガン	先 唱	聖書朗読		
8月15日	聖母の被昇天					前日pm5:00	藤 沼	斎 藤	鈴木(明)	福 田	夜ミサA
						7:30	渡 邊	二 宮	田 口	細 谷	朝ミサA
						11:30	米 沢	遠 藤	池 田	上 瀧	昼ミサA
22日	年間第21主日					前日pm5:00	村 松	山本(康)	工藤(元)	志 村	夜ミサB
						7:30	太 田	末 澤	東海林	津久井	朝ミサB
						11:30	米 沢	村田(義)	川 田	鈴木(理)	昼ミサB
29日	年間第22主日					前日pm5:00	忠 海	田中(麻)	佐藤(篤)	阿 部	夜ミサA
						7:30	太 田	亀 井	花 田	石 井	朝ミサA
						11:30	手 塚	藤原(ま)	小 松	荻原(恵)	昼ミサA
9月5日	年間第23主日					前日pm5:00	村 松	竹之内	新井田	島 田	夜ミサB
						7:30	手 塚	石川(喜)	島 田	石 賀	朝ミサB
						11:30	中 川	佐藤(篤)	後 藤	紀國谷	昼ミサB
12日	年間第24主日					前日pm5:00	藤 沼	斎 藤	鈴木(明)	福 田	夜ミサA
						7:30	中 川	二 宮	柳 川	神 近	朝ミサA
						11:30	佐 藤	遠 藤	川 田	木 原	昼ミサA
19日	年間第25主日					前日pm5:00	太 田	山本(康)	工藤(元)	志 村	夜ミサB
						7:30	渡 邊	末 澤	田 口	細 谷	朝ミサB
						11:30	米 沢	村田(義)	池 田	上 瀧	昼ミサB
26日	年間第26主日					前日pm5:00	忠 海	田中(麻)	佐藤(篤)	阿 部	夜ミサA
						7:30	米 沢	二 宮	東海林	津久井	朝ミサA
						11:30	手 塚	藤原(ま)	川 田	大 島	昼ミサA

(注) ・コロナ禍が続き、神奈川県に緊急事態宣言が発出されているため、8月はミサで聖歌を歌いません。
9月以降は未定です。
・「子どもとともに、ささげるミサ」は当分ありません。

編 集 後 記

山手教会のマリア像の脇に紫陽花があることは皆様ご存じでしょう。梅雨時にマリア像に挨拶やお祈りをしたあと、しばし眺めて今年もきれいに咲いていると思うのです。今年の7月初め、司教館からの帰り道で何気なくマリア様の後ろ姿を見たとき、像の足元にアガパンサスを見つけました。これまでマリア様の正面しか見ていなかったのに紫陽花の陰にひっそりと咲いているアガパンサスに気づかなかったのです。アガパンサスの花の名の由来は、ギリシア語の愛 (agape: アガペー) と花 (anthos: アントス) です。愛の花 (Agapanthus) がマリア像の側に咲いているとは感激でした。紫陽花の脇で隠れるように咲いている様子は、真の愛は控えめで、そして常に寄り添うもの、ということを教えてくれているようでした。アガパンサスの和名は紫君子蘭(ムラサキクンシラン)です。



(竹之内弘美)

鈴木真師の主日ミサ説教については、時期が後ろにずれる場合もありますが、時系列で順番に掲載していますので、ご了承ください。

(土方芳人)

☆表紙のカット (山手教会) は、濱尾文郎枢機卿様の「えはがき」です。